

発電コストを最優先

—原子を構成する原子核はつねに安定していて、原子核のまわりを回る電子がいろいろ結びついたりして変化が起こります。この変化によって、日常生活に必要なエネルギーは、工業的にあるいは人体の中で、生まれたり消滅したりしています。(中略)ところが核の

世界は、私たちの世界では本来的に前提になっている原子核の安定性にあえて挑んでいって、その原子核の安定性を崩します。不安定化することで膨大なエネルギーを取り出すわけですから、私たちの日常生活にとっては脅威となるような現象がそこから起こってくることとなります。—(「原子力神話からの解放」、高木仁三郎著、講談社+α文庫)。

そもそも原子力と共存(コントロール)自体は人類には手の負えないシロモノです。今だに神の領域です。

電力会社は目先の収益。火力より安い、コストは収益が最優先です。廃棄物の処理も当然に先送りです。

日本民族の悠久の国土を汚す者が、敗戦後を支配しています。



(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2012年7月17日(火) NO. 260

地域から明るい未来を作ろう

施行は翌一月一日

『平成23年12月改正通則法で税務調査はこう変わる』アマゾンの書評です—



私は 会社経営をしています。この本を読んでまず感じたのは、顧問税理士の頼りなさです。この本を書かれた方は国税OBの方なのですが、同じOBの私どもの税理士とは全く違います。なぜ同じ土壌に育った方でもこんなに違うのでしょうか。調査では、税務職員という通りに従われます。調査の最後も、税務署の方がこう仰られているからそうしたほうがいいですよと言います。通則法

が変わったということですが、私どものような経営者にとってみれば、非常に良いことだと思えます。税理士が助けてくれないのだから頼るのは法律だけだと感じました。この本を機にもっと勉強して頼りない税理士など当てにせずに自分でできるようになりたいです。幹部署長クラスが現場に天下りし顧問先の斡旋がこの病理にあるのです。わが国の財務省、官僚支配の屋台骨です。

7月1日の山開きに、前泊で単独登山をしました。目的は山小屋(室堂)の食事を実際に体験することです。しかし、見事に体力の劣化を実感しました。日本三名山の一つで、全国的な以前の風評は最悪のカレーで有名でした。先の県議会

山開き白山

の傍聴では、観光資源である白山に力を入れる議論。自然もですが、もう一つの大きな魅力は食事です。食べ物の恨み等と称します。他県に比べ絶対に劣ってはならないのです。最近ネットで、写真が張つてあるブログを

見ます。費用対効果は、実際に食べなきゃ分かりません。質問に立った新進の議員さんは実際に食したことが...?。室堂改築時に調理場を改装し、不評だったカレーから定食メニューに変わったようです。セルフサービスで、お代わり自由がうれしい。朝晩の二食が二千六百元、費用対効果はまずまず合格?。ただ石川県産の食材を主力に、海・農産物のPRが必要、県内産のお品書き位

